

# 音楽は人をつなぐ

「ちびっこのど自慢」から「シューベルト」へ

音楽の道に入られたきっかけは？

やはり小学6年生のときに出了た「日清ちびっこのど自慢」でしょうね。3,000人の応募があつて、3次予選で14人残り、丹波篠山から大阪へ行って山田太郎の「明日を信じよう」を歌いましたよ。それから、童謡とか唱歌のソノシートをよく聴いていましたね。小学生の頃から私、演歌が好きで(笑)。特に、井沢八郎の歌が大好きでした。

中学生になってフラスバンド部でクラリネットに出会うと、これが面白くて面白くて。高校に入ってから、「オレはこれで行くぞー」みたいな。音楽大学を目指して没頭していたころ、鳳鳴高校の音楽の先生に、「畑くん、あなたクラリネットっていつてるけど、歌の方もやってみたら？」って言われ、歌へ方向転換するきっかけになりました。

畑先生と云えば、「シューベルト」。なぜシューベルトを？

音大の音楽科2年のときでした。「日本テレマン協会」のコンサートを聴きに行ったら、これが素晴らしい。パロック時代の音楽を専門に演奏する楽団なんです。僕にぴったりきました。それで、その合唱団に入って、ドイツ語のつ

## プロフィール

**畑 儀文** (はた よしふみ)  
兵庫県篠山市生まれ。国内外においてテノール・ソリストとして活躍。1993年から1999年3月にかけて、シューベルト全歌曲演奏を成し遂げ話題を集めた。現在、丹波の森国際音楽祭シューベルティアードたんば総合プロデューサー、武庫川女子大学音楽学部教授。

いた音楽を学んだわけですか。

まずバッハ、ヘンデル、テレマンというバロック音楽がベースにあつて、次にモーツァルトとベートーベンがきて、そんな脈々と流れてきたドイツ音楽の影響を受けたシューベルトの音楽と出会ったわけです。やはりドイツ語のついた音楽をやっていたら、シューベルトはものすごい高い山ですから、登りたいなという気持ちにもちろんなるわけですよ。歌曲を600も作ってますし、こんなにたくさん作った作曲家っていませんから。

実際に「登って」みられて？

発見の連続でした。知らない事ばかりでしたから。決して同じような曲っていうのが無かったですね。シューベルトの曲は全部何かが違う。だから練習しても楽しくてしょうがなかった。楽譜を見て、「こういう風なテンポで、こういう風な音符の扱い方でシューベルトは生きるぞー」。シューベルトの音楽を絶対に殺さないような楽譜の見方が、

畑さんは声楽家である。世界で初めてシューベルトの全歌曲連続演奏会を成し遂げられた、世界的なテノール歌手だ。「シューベルティアードたんば」を立ち上げられ、「やしの実コンサート」「武庫川曲水(めぐりみず)コンサート」「アジア思国歌(くにしひのうた)コンサート」など、人と人のつながりを大事にされたスタイルで「音楽は人をつなぐ」を実践されている。

「ホールで演奏して、良かったねって言ってもらえるだけの音楽でいいの?」「音楽って、もといろんな場所でやってもいいんじゃないの?」。自身への問い掛けを、ここ小野市でも実現してくださった。去年、龍翔ドームで行われた「シューベルティアード小野」の街角コンサートだ。夕日に染まる会場に「日々草」のテノールが響くなか、風の音、カラスの鳴き声がいもっていく。今回のインタビューは、そんな畑さんの魅力に迫ってみました。



シリーズ  
listen to....

# 聞く Vol.11

はた よしふみ  
畑 儀文さん  
テノール歌手

ちよつと分かったかなという感じです。連続演奏会は足かけ7年間でやったんで、年間100曲くらい歌ったことになりですね。600曲のコンサートをやったのが世界で初めてだったんです。

演奏会でなにかこだわりは？

コンサートですから、お客さんに来てもらわないといけない。年に4回、自分の勉強に付き合ってもらおうという気持ちもありましたし、150通ほどの招待状や案内状を私の教え子に書いてもらって送ったんですよ。そしたら、「あれ、畑さんの字やなかったよね。だから行かへんかってん」って言われて。さすがに落ち込みましたね。それから、全部自分で書くようにしました。宛名書きは、自分の音楽へのこだわりだったような気がします。書きながらその人の顔が浮かんでくる。宛名書きを通して、人とつながるってそういうことなのかも知れないとわかったような気がしました。

「全歌曲演奏会」から

「丹波の森国際音楽祭」へ

「丹波の森国際音楽祭」の総合プロデューサーをされたいきさつは？  
きっかけは偶然でした。歌曲の連続演奏を始めたころに、新聞で「丹波の森」と「ウィーン」の森が姉妹提携したという記事を目にして、飛び上がったんです。自分が今取り組んでいるシューベル

んです。音楽には全く素人だったメンバーも加わって支えてくれ、みどりに囲まれた丹波のあちこちで「街角コンサート」が開かれるようになりました。クラシックなんて聴いたこともなかったお年寄りが目に涙を浮かべながら耳を澄ましている。そんな光景が、「シューベルティアードたんば」の核になったかもしれせん。

人をつなぐコンサートへ

その後も、ユニークな独自の音楽活動を続けておられますが...

これも偶然なんです。梅田のおでん屋でたまたま、ドキュメンタリー番組のディレクターに会ったら、離島の話から「島と歌」が結びついて、「畑さん、島でコンサートをやりましょう」って言われて。それで、「自分が行って歌うだけなく、みんなをひとところに集めてみんなとやりたい」と提案したんです。

コーラスの指導で悩んでいた時期だったので、合唱ということを確認するためにやろうと思ったのかな。小さな島をめぐって、そこで出会った子どもたちを集めて、西宮でコンサートを開いたんです。子どもたちはたくさんの人で、思いっきり声を出して歌うなんて初めての経験だから、しびれるような感動だったんでしょうね。純粹に、歌うことを楽しいというか、喜びに感じるといふのを痛感したので、これが原点だと確信しました。



小野市で初めての街角コンサート。(2007年9月、龍翔ドーム)

シューベルティアードたんばのメンバーですね？

ええ。以前からヨーロッパで開かれているシューベルトの音楽祭「シューベルティアード」のことが頭にあつたので、仲間が集まってもらったんです。彼らが最初に言ったのは、「音楽好きな人の、音楽愛好家だけの音楽祭になるなら、僕ら出る幕ないから勝手にやっつて。僕らは、音楽を使つて、知らん人同士が集まってきたり、人をつなげたい事ができるならばやりた

他にも「人と人とのつながりを大切にされた活動」をされていますね。音楽と川で人を繋ごうと思つて、武庫川の流域にある小学校を探して、「川でつなぐ小学校の子供たち」っていうコンサートをやっています。それから、アジアの音楽をもっと知ろうよと、「アジア思国歌コンサート」をアジアからの研修生と一緒に取り組んでいます。それぞれのお国の歌を教えてもらつて、彼らと一緒に歌うんです。楽しいです。すると、その国を見る目が広がってくる。ヨーロッパの音楽家たちと付き合っているのと全く違う触れ合いがあります。これからは、そういう橋渡しをしていきたいと思つています。

これからは、「歌うことは楽しい!」そんな輪をもっともつと広げていってください!

畑先生に会える!

## コンサート情報

- 丹波の森国際音楽祭  
シューベルティアードたんば2008  
音楽祭のオープニングコンサート  
■日時:2008年9月7日(日)  
2回公演 ①13:30~②15:30~  
■会場:お菓子の里 丹波(篠山市)
- シューベルティアード小野コンサート  
■日時:2009年1月18日(日) 14:00開演  
■会場:小野市うるおい交流館エクラホール

